

第1314回 高知市教育委員会11月定例会 議事録

1 開催日 令和6年11月18日（月）

2 教育長開会宣言

3 議事

日程第1 会議録署名委員の指名について

日程第2 市教委第44号 高知市教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価  
について（継続審議）

4 出席者

(1) 教育委員会	1 番教育長	永 野 隆 史
	2 番委員	谷 智 子
	3 番委員	西 森 やよい
	4 番委員	野 並 誠 二

(2) 事務局	教育次長	竹 内 清 貴
	教育次長	植 田 浩 二
	教育政策課長	岸 田 正 法
	学校教育課教育企画監	市 原 俊 和
	学校教育課学力向上指導監	岩 城 多加仁
	教育研究所長	越 智 知 恵
	教育政策課長補佐	神 岡 純 子
	教育政策課総務担当係長	西 野 友 庸
	教育政策課主査	四 國 真 衣

5 欠席者	5 番委員	森 田 美 佐
-------	-------	---------

1 令和6年11月18日（月） 午後4時00分～午後4時30分（たかじょう庁舎6階大会議室）

2 議事内容

開会 午後4時00分

**永野教育長**

ただいまから、第1314回高知市教育委員会11月定例会を開会いたします。

日程第1，会議録署名委員の指名を行います。

会議録署名委員は、谷委員，お願いいたします。

**谷委員**

はい。

**永野教育長**

本日は議案が1件となっています。

それでは，議案審査に移ります。

日程第2 市教委第44号「高知市教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について」を議題とします。この件は，前回11月5日の臨時会から継続審議となっています。

前回の臨時会において委員の皆様から頂いた御意見を受け，修正した箇所につきまして，御説明させていただきます。

それでは，「対象事務1：G I G Aスクール構想推進事業」について，事務局から説明をお願いします。

**学校教育課教育企画監**

G I G Aスクール構想推進事業につきまして，前回大変多くの御意見を頂きました。ありがとうございました。頂きました御意見を踏まえ，修正を行いましたので，順次御説明させていただきます。

まずは，枠囲みになっております，点検・評価委員の六つの提言部分について，修正点があったところを説明いたします。

6ページの提言①ですが，当初は「「NEXT G I G A」のイメージの具体化及びイメージの共有」となっており，「の」が重複してございましたため，「「NEXT G I G A」に係るイメージの具体化及び共有」と修正いたしました。

次に，提言②につきましても「の」の重複が見られましたので，当初，「高知市の授業と家庭学習の往還についての活用モデルの開発」となっておりましてところ，「高知市の」をとりまして，「授業と家庭学習の往還」に係る活用モデルの開発」と改めております。

続きまして，7ページ目の提言③につきましては，当初，「授業と家庭学習を往還させている事例の収集及び学校への共有」としておりましたが，「授業と家庭学習を往還させている好事例の発信」と修正しております。

続きまして，提言④につきましては，「A I型デジタルドリル等の教員の活用方法の周知」としておりましたが，「A I型デジタルドリル等に係る利便性の周知」と修正しております。

なお，提言⑤及び提言⑥につきましては変更ございません。

次に，それぞれの提言に対する回答としまして，提言順に修正した点について説明いたします。

まず，6ページの提言①に対する回答につきましては，文末の「創意工夫を図っていきたい。」としておりましたところを「創意工夫を図っていく。」と修正しております。

続きまして、提言②への回答につきましても、文末が「モデル化を図っていきたいと考える。」と曖昧さが残っていましたが、「モデル化を図っていきたい。」と修正しております。

提言③に対する回答につきましては、変更ございません。

提言④に対する回答につきましては、これも文末のところですが、「指導の個別化と学習の個性化を図っていきたいと考える。」としておりましたが、「指導の個別化と学習の個性化を図っていく。」と表現を改めております。

続きまして、提言⑤に対する回答につきましては、最後の「今後については、趣旨を同じくするほかの学校訪問予定があるならば」と限定した書き方になっていたところを改めまして、「今後、可能な範囲でほかの学校訪問予定と日程を合わせるなど、高知市教育委員会内での連携を図る必要がある。」と課題意識を持った表現に改めております。

最後の提言⑥に対する回答につきましては、様々な御意見や御指摘を頂いたところでございます。文中にあります、文部科学省から提供されている啓発資料、「子供たちの目を守るために」には、次のような記載があります。「文部科学省の学校保健統計調査において、日本における裸眼視力1.0未満の子供の割合は、約40年前と比べて増加傾向にあります。」とあります。また、この資料には、「児童生徒の近視実態調査では、学校以外での電子機器の利用について、一律に視力低下や近視の新規発症に関連が大きいとは言えませんでした。」との記述があります。このため、当初、記述しておりました「デジタル機器の普及が急速に進み、デジタル機器の使用時間も増加傾向にあると言われている。このことに伴い、視力低下や身体的疲労、姿勢の悪化といった健康問題に対する懸念も生じている」という部分につきましては、デジタル機器と健康問題との因果関係が明らかになっていないことから削除し、「本市では」から書き始めるようにしています。さらに、最後の段落につきましては、「しかしながら」で始まり、「直接的な指導については、学校において行われることになる」等の記述をしておりましたが、逆説で分かりづらい表現になっていました。このため、前の段落に加えてということになるよう、「これに加えて、学校においても、児童生徒への適切な使用時間や身体的疲労、姿勢の健康面に関する配慮や指導を行った上で、GIGAスクール構想の推進に努めるよう、各学校に繰り返し、周知を図っていく必要があると考える。」と改めております。この修正につきましては、西森委員から御助言を賜りまして、反映させていただきました。ありがとうございました。

以上がGIGAスクール推進事業に対する提言と提言に対する回答の修正になります。

どうぞよろしく願いいたします。

#### 永野教育長

この件について、質疑等はありませんか。

#### 西森委員

前回申し上げたところを適切に反映していただいていると感じておりますので、私からはこれ以上ございません。ありがとうございました。

#### 谷委員

私も同じくです。

#### 教育政策課長

資料の8ページ、提言⑤の下から6行目、「学校支援にいかすようにしている。」この「いかす」の文字につきまして、なお確認をしてみました。答えとしましては、「ひらがな」でいきたいと考えております。お配りしております資料の左側が使う言葉、右側がそのときの文字となっており、今回の場合、さんずいの活用の「活」、漢字でいうとそれになると思われませんが、この場合はひらがなで「いかす」となります。生命に関するこの場合は、漢字を使うとなっておりますので、ひらがなを使っています。なお、学力のところでも使っていますが、ひらがなとしております。以上です。

## 永野教育長

文言が修正されたと確認が取れました。

それでは、「対象事務2：不登校対策」について、事務局から説明をお願いします。

## 教育研究所長

それでは、不登校対策について、御説明させていただきます。

資料11ページからになります。11月の臨時教育委員会では、貴重な御意見を頂きましてありがとうございました。頂きました御意見を基に修正した箇所について、御説明をさせていただきます。大きく2点修正しております。

1点目は、提言を五つから四つに集約し、文章構成を再構築した点、2点目は全体的に分かりやすくするため、文章表現を修正した点となっております。それでは、順に御説明いたします。

まず、14ページを御覧ください。中段の点検・評価委員の意見・提言への対応の部分です。ここでは、御意見を頂いて修正したということではないのですが、成果として、重複した内容があり、伝わりやすくするため段落構成や文章表現を整えさせていただきました。

次に、15ページからの提言に関わる部分についてです。前回の報告書では、提言④として、「優れた取組の収集及び共有」とあり、対応する取組への御意見として、冊子化などの手立てが他の提言での対応とも重なることから、まとめて示した方がより強調できるのではと御意見を頂いておりました。そのようなことを踏まえ、提言の文言について御相談をさせていただいたところ、提言が四つに集約された形となりました。そこで、提言②の中に提言④を含む形で対応する取組を記載しております。15ページの提言②を御覧ください。上から3段落目と4段落目に不登校支援担当者研修会での取組や指定校での実践を通して、効果が見られた取組等を発信すること、また、今後、冊子化する運営マニュアルの発信についても盛り込み、こちらの方で反映し再構成をしております。

続いて、提言③についてです。提言③の「多様で重層的な支援策の構築」につきましては、前回、「学びへのアクセスに向けた支援」などの文言を文章の中に入れるとより明確になるのではないかと御意見を頂いておりました。そこで、2段落目以降に、学びへのアクセスができるようにするための取組として、まとめて示すようにし、段落等の入れ替えや表現の修正をいたしました。また、学びの多様化学校に関わりましては、新たな段落として明示するとともに、16ページの下段の米印3に学びの多様化学校についての注釈を加えさせていただきました。

最後に、四つ目の提言になります。提言④につきましては、文頭に「校内サポートルームにおける」という文言が追記され、焦点化されておりますが、それに対応する取組についての変更はございません。

そのほか、不登校支援推進協議会から頂きました提言書にあります、不登校の捉え方についての記載についても御意見を頂いておりました。検討させていただき、ここでは11ページに国が示しております不登校児等生徒への支援に対する基本的な考え方を示しておりますことから、国の考え方のみの記載とさせていただければと考えております。

以上、大きく修正いたしました点について御説明させていただきました。御意見のほどよろしくお願いいたします。

## 永野教育長

では、この件に関して質疑等をお願いします。提言を四つから五つにしたというのが大きなところでございますし、また、細かな点については、御指摘のあったところについて、修正はできているということでもありますけれども、さらに、御覧になってお気づきのことがありましたらお願いします。

## 谷委員

学びの多様化学校をこのように取り上げて、説明を分かりやすくしてくださって、とてもいいなと思いました。

## 西森委員

これも表記の問題なので、後で御検討をお願いします。15ページの提言②に対応する取組の中で、二重括弧と普通のかぎ括弧の使い方が出てきます。上から2行目に『60通りの「未来へつなぐ10の提言」』、括弧の中に括弧が出てくるのが困るところですが、ここでは二重括弧で書面の成果物というのか制作物を表記しているのかなと感じたところです。下から2行目に『運営マニュアル』があります。8ページの先ほど終わったところに戻りますが、8ページの健康のところですが、2行目に「タブレット端末利用手引き」ということで、ここでもどうもそういった冊子である感じがします。

## 永野教育長

統一感がないですね。

## 西森委員

これについても公用文で決まっているのか、鍵括弧のことをあまり研究したことはありませんが、基本的に鍵括弧は一重の鍵括弧が基本で、二重括弧は一重括弧でだめなときの例外的な使い方というイメージが私は漠然とあります。15ページで二重括弧が出てきて、このような使い方もあるのかと一旦そちらに寄せたくはなりますが、今後、こういう資料を毎年作っていくことでもあるので、一重括弧と二重括弧の使い方は、1回整理してもいいのではないかと思いました。なので、例えば『60通りの「未来をつなぐ10の提言」』についても、外側を一重にして、中を二重にすれば、ほかにも全部一重でいけるので、あまりひっかからずに読めると思いました。使い方についていかがでしょうか。何かありますでしょうか。

## 教育研究所長

ありがとうございます。不登校対策については、冊子に関わる箇所を二重括弧にしておりましたが、両方とも一重括弧で修正します。

## 西森委員

二重括弧を使うのは、かなり例外で基本的には使わないのですね。

## 教育政策課長補佐

基本は、一重括弧の中に一重括弧となります。

## 西森委員

分かりました。ありがとうございます。

## 永野教育長

著作物を引用するときには、二重括弧を使うこともあると思いますが、市の文書規定やあるいは一般的な規定をもう一度見て、これはここだけではなくて、全体を通して使い方を総点検させていただきます。

ほかにありませんか。

## 野並委員

質問というよりも教えていただきたいのですが、例えば16ページの下注の文章の中、あるいは文章全般に言えるかもしれませんが、読点が少なく、文章が長い、役所が作る文書というものは、本来はあまり読点を入れないものなのではないでしょうか。例えば「児童生徒が登校しないあるいはしたくとも」というところだと、私であればそこにもうすでに三つぐらい読点を使います。こういうものなのではないでしょうか。

## 教育研究所長

この注釈のところについては、引用している部分がありますので、引用元がどのような書き方をしているかにもよります。

## 永野教育長

国が発信する文章をあまり変えたくないというところもあると思います。

## 野並委員

分かりました。

## 永野教育長

参照ということであれば、もう少し読みやすいように整理すると思います。

## 教育研究所長

整理します。

## 永野教育長

私から一ついいでしょうか。提言③の最後の多様化学校については、これまでもずっと論議をしてきたところですが、いわゆるセーフティネットとしているような場を確保していくということからも、本市に見合う多様化学校、学校という一つの大きな器で、看板があって校門があってというようなイメージをしてしまいますが、本当に柔軟にその町村に合わせた、現状に合わせた学校というふうに捉えておりますので、その研究をしたいと思っております。実際に研究をするに当たっては、結構時間がかかりますし、文科省の協力を得ながら、お金も頂きながら研究していくということにもなるかと思っておりますので、こういう書き方で、主体的に高知市教育委員会が実施に向けて検討を進めていくという表記にさせていただいております。御理解を賜りたいと思います。

ほかに御意見はございませんか。よろしいでしょうか。

それでは、「対象事務3：学力向上対策」について、事務局から説明をお願いします。

## 学校教育課学力向上指導監

まず、お断りいたします。事前にお送りしました資料と本日の差し替え資料とでは、24ページの提言③に対応する取組の記述が変更されております。大変御迷惑をおかけしますがよろしく願いいたします。

それでは、前回の貴重な御指摘・御意見に対応しまして、修正案を作成しましたので御検討をよろしく願いいたします。では、順次御説明いたします。

22ページをお開きください。22ページの点検・評価委員の意見・提言の対応のところでは、提言④に対応する取組に記述していたものを、前文に移動させてはどうかという御意見を頂きました。そこで、内容はそのまま、点検・評価委員の意見・提言の対応の文末に入れることで、学力向上推進室としての活動が明確になるように修正しました。

次に24ページをお開きください。提言③では、PDCAサイクルの捉え方、一層改善していくという視点、何校中何校という数、全体として対応策を示していくようにという御意見を頂きましたので、文章のほうには、学校の取組を教育委員会の取組として指導助言の手立てを再考していくという文言を修正しました。御検討をお願いしたいと思います。

次に25ページをお開きください。全体として、提言④の先ほどの前文に移動した記述を削除しております。

次に提言⑤です。別建てに教員不足の対応策等示してみてもという意見に関しましては、人事関係ということもあり、学力向上推進室として記述しにくいと、今回は見送りさせていただきました。

26ページをお開きください。最後の米印のところですが、先ほど前文に持っていった関係上、文章の構成が変わりましたので、米印の順番をウェルビーイングが1、学びのDXが2、クロス分析が3と修正しております。

以上が説明となります。御意見等よろしく願いいたします。

## 永野教育長

では、この件に関して質疑等お願いします。

## 谷委員

提言③の回答ですが、事前にも送られてきたものを見たら、「しかしながら」からの後がよく分かりませんでした。でも、今回差し替えのあった資料を見ると、非常によく分かるようになっていま

す。なぜかというところ、「PDCAサイクルの確立の有無を成果のみから評価する状況も見られることから」と、このようになっていて納得が良かったです。ありがとうございます。中身がとても良くなったと思いました。以上です。

**西森委員**

はい、私は形式面だけです。26ページの米印のところですが、この点はいらないのではないかという感じがしまして、ウェルビーイングの後に点がありますが、16ページとの整合性でいうといたらないと思います。米印3のところのように箇条書きにしたい気分になるかもしれませんが、なくてもいいと思うので、単に形式段落にしておくだけでもいいと思います。この点は何か意味を考えてしまうかもしれないので、外したほうがいいと思います。

**永野教育長**

この表記の方法も横断的に見ると、少し統一性がないように見えます。

**学校教育課学力向上指導監**

はい、修正します。

**永野教育長**

ほかにございませんでしょうか。

**西森委員**

25ページの提言④の中で1行空いていたり、ずっと戻るとGIGAスクールの関係の8ページのところでも提言⑥の下が1行空いていたりします。全体として1行空けることによって何らかを表現するという文章体裁はとっていないようなので、そういったところは全体を見ていただいて、削っていただけたらと思います。

**学校教育課学力向上指導監**

はい。

**永野教育長**

それでは、ほかにも御意見もないようですので、この件の質疑を終了し、採決に移ります。市教委第44号「高知市教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について」は、原案を基本的に了とし、本日の会での御意見も踏まえ、修正点や字句の整理等については私と事務局で協議し、報告書としてとりまとめたいと思いますが、よろしいでしょうか。

**委員一同**

————— 【異議なし】 —————

**永野教育長**

それでは、市教委第44号について、報告書の最終のとりまとめは私が行わせていただくことにいたします。以上で本日の議事日程を全て終了いたしました。これで教育委員会を閉会いたします。

閉会 午後4時30分

署 名

教育長 \_\_\_\_\_

2番委員 \_\_\_\_\_